

共に未来を育てるために 進路指導の 現場から

進路指導は偏差値より 生徒の適性を重視

——進路希望の生徒を指導する際に、一つの大きな指標として偏差値があると思います。それ以外にどのような指標を重視しているのでしょうか？

本校は総合高校で、卒業生の約6割が大学・短大に、約3割が専門学校に進学します。大学・短大

進学者のうち、推薦・AO入試での進学者が約7割と多く、センター利用入試、一般入試での進学者は約3割です。

進路指導の際に私が重視するのは、偏差値よりも生徒の適性です。本人がやりたいことを実現し、将来の職業につなげられるように支援するのが最大の目的です。本校では1、2年次から「産業社会と人間」の授業や課題研究か

今の高校生は切実に将来を考え、 大学をシビアに検討しています



東京都立晴海総合高校 相談部主任
森川雅彦

もりかわまさひこ ● 教職歴34年。専門教科は地学。東京都の私立高校講師、都立高校教諭を経て、2011年より現職。20年以上進路指導に携わる。東京都高等学校進路指導協議会の役員を務める。

ら、適性やライフプラン、生き方や職業を考えさせています。推薦・AO入試の希望者には自分だけで判断して安易に進路を決めてしまわないよう、事前に相談に来るよう伝えていきます。

**総合高校の生徒は
早期に進路を決めている**

——総合高校の生徒の進路選択には、どのような傾向がありますか？

総合高校の場合、早い段階から進路を明確にする生徒が多いと感じています。毎年4月に進路希望調査を実施していますが、1年次から「大学ではこういったことを学びたい」「自分は大学ではなく、専門学校に進学したい」といった具体的な回答が多く見られます。3年次の4月には大学進学希望者の7割以上が第1志望、第2志望の大学を決めていて、その多くが実際に志望大に進学しています。

以前勤務していた普通高校では、3年次の4月でも大学名どころか、具体的な学部・学科系統も未定という生徒が見受けられましたが、この学校ではそういう生徒は極めて少ないですね。

ただ、普通高校の生徒も、以前より志望大をシビアに検討してい

るのではないのでしょうか。今は難関大学に入学できれば、将来がある程度保証されていたような時代ではありません。生徒自身も、自分の力で未来を切り開かなければならないと切実に考えています。

だからこそ、偏差値ではなく、「自分のやりたいことを実現できるかどうか」を重視して、志望大を決めているように見えます。

——併願大の数が減ってきているという話も耳にします。

減っているでしょうね。20年前は10校も受験する生徒がいましたが、最近はいせいで4、5校程度です。えり好みをしなければ大学に入学できるという時代背景もあるのでしょう。以前はチャレンジ校を絞り、実力相応校、安全校を

多く受験する三角形の併願パターンでしたが、最近はチャレンジ校を多く受験し、安全校の校数を絞る逆三角形型にシフトしているようです。

大学卒業後の姿を 高校側に発信してほしい

——高校の先生方は大学に関する情報をどのようなツールを使って入手しているのでしょうか？

受験情報誌のほか、大学基準協会や日本高等教育評価機構の評価を確認します。また、大学説明会に積極的に足を運ぶようにしています。大学関係者から説明を聞いたり、実際に進学した卒業生から話を聞いたりすることで、印象が変わることもありますから。

——進路指導の担当者として、大学側からもっと発信してもらいたい情報はありますか？

キャリア教育の具体的な内容ですね。総合高校ではキャリア系科目の授業、行事など様々な活動で、発表やレポートなど能動的な活動をしています。大学でもこのような丁寧な指導が行われているのか知りたいで



すね。「就職ガイダンスの実施やエントリーシートの指導をしている」といった話は耳にしますが、「今の世の中にはこういう人材が必要とされている。だから、私たちはこのような方法で、学生を育てている」といった具体的な発信が少ないように感じます。

——3つのポリシーがある中で、ディプロマポリシーが伝わっていないということでしょうか？

そうですね。伝わってくるのはアドミッションポリシーばかりです(笑)。私たちが本場に知りたいたいの就職先の企業名ではなく、「大学が学生をどう育てて、社会に送り出しているか」です。高校から大学、社会へと進んでいくのは同じ一人の人間ですから、大学で活躍する学生の様子を母校の高校に伝え、企業でがんばっている卒業生の様子を社会に発信してい

高校訪問 ワンポイントアドバイス

相手高校のニーズに 合わせた情報発信を

学部の説明から、入試、就職の情報まで全てを伝えようとする方がいらっしゃいますが、知りたい情報は高校によって異なるはずで、大学は事前に質問シートを送ってくれるので、知りたいことを返信しておく、それに対する回答や資料を持ってきてくれます。このような方法だと、相手方の高校に喜ばれ、関係性もよくなるのではないのでしょうか。

まとめ

高校生の進路に
対する価値観は
多様化している
社会で活躍する
卒業生の姿を
発信してほしい